

6. 農業振興活動

(1) 地域農業の振興

持続可能な農業の実践に向け、地域特産物の生産拡大と実需の要望を踏まえた各種品目の作付推進を展開し、作物に応じた基本技術の励行と、生産から流通までの工程管理を確認するGAPに取り組み、更なる品質の向上につとめました。

有害鳥獣被害対策については、行政機関と連携をはかり補助事業を活用し防除対策に取り組みました。

(2) 次代へつなく担い手の育成

営農組織の法人化と新規就農者への支援による次代へつなく担い手育成と、新たな農業技術の実践と提案活動に取り組みました。

(3) 京都ブランドの強みを活かした生産振興

京都米については、「KOS-180」運動を継続し、各地域組織から状況に応じた営農情報の発信により良品米の生産に取り組みました。

京野菜については、地域の実情に応じた栽培研修会や視察研修会などの部会活動を実施し、品質と栽培技術の高位平準化につとめるとともに、より有利な販売体制の確立を目指して新たな京野菜産地のブランド化をすすめました。

また、京都府の事業を積極的に活用してパイプハウスの導入をはかり、更なる特産物の生産振興と安定生産・出荷を目指した産地形成につとめました。

豆類については、黒大豆を中心に契約栽培による新規産地の確立と新技術の検証ならびに増収技術の向上による安定生産に取り組みました。

(4) 消費者の信頼に応える食の安全・安心対策

GAPの特産物への適用を目的として、地域版普及拡大ポスターを作成し、各種研修会によりGAPの実践と理解を深めました。

(5) 生産農家と消費者を結ぶ取り組み

地産地消の拠点とする農畜産物直売所「たわわ朝霧」では、京都ブランドの優位性を最大限に活用した新鮮で安心な農畜産物の供給と今搗き米の対面販売により、「食」と「農」を結ぶ架け橋、消費者との交流の場として地域をはじめ府内外からも多くの方にご利用いただき、年間来店者は33万を超えました。

(6) 健全な食と農を伝える取り組み

JAくらしの戦略を策定し、地域に根ざした支店活動に取り組むJAくらしの推進員を配置し、協力組織とともに安心して心豊かに暮らせる地域社会づくりをめざし、さまざまな活動を実施しました。

酪農センターでは牛乳の加工販売事業を行っており、地元の保育園や小学校へ牛乳の供給をとおして、児童の発育や健康増進に貢献しています。